

平成 29 年度 第 3 回「在職者のための定着支援研修会」が終了しました。

12月5日（火）15：00～17：00の日程で「”ちゃんと”って何ですか？～会社の人と考えよう～」をテーマに研修会を開催しました。この研修は企業で働く障がいのある方を対象とし、昨年度から企業の人材育成とタイアップしながら進めています。働く上での『報告・連絡・相談』は、仕事においても人間関係を築く上でも大切なことですが、苦手を感じている人もいます。今回は、企業担当者の方にも参加していただき、気持ちよく働くために必要な配慮や工夫を一緒に考える場を設けました。

第3回目は、企業の参加者とオブザーバーを含めて18社42名の皆様にご参加を頂き、講義と事例に沿ったグループワークを中心に進めました。

講義では、なぜ『報・連・相』が会社の中で必要になるのか、実施していくためのポイント等について確認をしていきました。「ちゃんと」や「きちんと」といった曖昧な表現では内容が伝わりにくく誤解が生じてしまうこともあるため、伝える際には5W3Hを活用することにより、お互いの気持ち・思いを具体的に確認することの必要性を共有できました。



グループワークでは、職場で曖昧な指示を受けたことにより、双方で考え方のズレが生じてしまった場合を事例として取り上げました。自分が同じ立場になった時、「どんな対応ができたなら良かったか」「企業担当者はどんな伝え方をすると伝わりやすかったか」ということを各グループで検討しました。また、「何かあったら相談してね」と言われた時、何をどこまで相談すると良いのかという事例についても検討し、お互いの意見を聞きながら自分の思いや考え方についても振り返ることができたと思います。

終了後の報告書では、在職者の方からは「“ちゃんと”とはどういう意味なのか、曖昧な部分をしっかり詰めていくことが大切だと感じた」「グループワークをしたことで、他の人の意見を聴く事が出来て良かった」「伝えつつも伝わっていないこともあることを学んだ」などの感想がありました。担当の方からは「他の企業の意見を聞けて良かった、自社との比較が出来た」「普段気づいていなかったことに改めて気づくことがあった」「企業担当者も参加が出来る形が良かった」などの感想を頂きました。



伝える内容や職場の環境、立場によって方法・手段が様々なため、『報・連・相』は大切だと分かっているけれども、難しさを感じている実態が分かりました。今回、企業担当者が配慮する点や働くご本人が工夫する点をお互いに確認することで、「思うことや感じていることに違いがある」「その人に合わせた必要なサポートの方法」「配慮してもらえばかりではなく、その配慮によってどう働いていくか」ということ等を「雇う側」「働く側」が一緒に考える機会になったと感じております。

この研修会を通し、働く側の気持ちを知ってもらうことで新たな一面に気付くことが出来たり、企業担当者同士での意見交換により、必要なサポートの形を探すきっかけになったと思います。今後も人材育成に関する研修や余暇の活動を企画し、障がいのある方や企業の方と一緒に「働く」ことを応援していきたいと考えています。